

保護司会だより 第44号

習志野八千代地区保護司会

広報部

第73回 社会を明るくする運動



八千代支部大会開催スタッフ

「習志野八千代地区保護司活動」に寄せて



習志野市長

宮本 泰介

保護司の皆様におかれましては、日夜、地域において犯罪や非行のない安全で安心な社会づくりの推進に多大な御尽力をいただき、心から御礼申し上げます。

保護司の皆様には、持ち前の地域に根付いた活動力で、犯罪や非行をした人たちの更生・社会復帰の手助けや、「社会を明るくする運動」を中心とした犯罪予防の啓発活動に献身的に取り組んでいただき、安全で安心な社会を築く上で重要な役割を担っていただいております。

習志野市では、令和4年6月に「習志野市虐待・暴力・いじめ・差別から自身や大切な人を守る都市宣言」（通称：大切な人を守る都市宣言）を制定しました。

この宣言は、虐待・暴力・いじめ・差別を許さないために、これらの問題を市民全体で認識し、事態を解消し、市民が自分自身や大切な人を守るために個人が行動すべきことを共通理解することを目的としたものです。

様々な問題を、他人事にはせず、私たち一人ひとりが問題に向き合って行動する、この考え方は社会を明るくする運動と共通するものがあると考えております。

新たな手法の犯罪が次々と起こるこの社会において、今後、保護司の皆様の役割は多岐にわたり、ますます重要になることは明らかです。本市といたしましても、学校や関係機関、地域団体と連携して、安全安心な社会の実現に向け取り組んでまいります。今後とも、保護司の皆様からのお力添えをいただきますようお願い申し上げますとともに、貴会の一層の御発展と、皆様の御活躍・御健康を祈念申し上げます。

第73回 『社会を明るくする運動』

実施報告 八千代支部

八千代支部大会を、7月9日に八千代市市民会館小ホールに於いて開催しました。市民の皆様方217名が参加して下さいました。

式典では、作文コンテストの表彰式も行い、表彰された佐久間啓太さんは立派な振る舞いで表彰状を受け取りました。

講演会は、八千代警察署の方による「地域の犯罪傾向について」の講演でした。コントで編集したDVDを用いて、電話de詐欺の手口等をわかりやすく説明していただきました。演奏会は、八千代少年少女合唱団の澄んだ清らかな合唱で、皆に感動を与えてくれました。

アンケートには、94%の方々より今後もこの大会を行うべきとの回答があり、次回への励みになりました。

犯罪予防活動部長 池田正夫



八千代少年少女合唱団



表彰される佐久間啓太さん(左側)

講演を聴いて

◆演題…地域の犯罪傾向について

◆講師…八千代警察署 警察官

千葉県内の刑法犯認知件数は、平成14年をピークとして、現在5分の1程度までに減少してはいますが、電話de詐欺などによる被害が後を絶たず社会問題になっています。

保護司としても該当する事案を複数件担当してきましたが、千葉県警本部少年課作成のDVDにより、10代を含む若者が受け子や出し子などに対し、安易に手を染める実態がグラフで明らかとなり心を痛めました。

防止策として、「4つの”せん”でSTOP! 少年加担」が芸人のコントで示されました。①甘い話にのりません。②加担しません。③加担させません。④一人で悩みません。

よく出来た内容と納得した後で、さて若者たちに見てもらおうには「どうする…?」



八千代支部 山口 充美

実施報告 習志野支部

「社会を明るくする運動」習志野地区推進委員会では、7月5日にプラッツ習志野市民ホールにおいて、昨年の習志野地区作文コンテストで最優秀賞を受賞した市立実籾小学校6年生（受賞時5年生）の真中匠馬さんの作文朗読と、千葉ダルク生活支援員石田好文さんの「薬物依存からの脱却」をテーマとした講演会を中心とした地区大会を開催しました。

蒸し暑い梅雨空の下でしたが、推進委員会構成27団体のメンバーをはじめとして総勢231名の参加者が客席を埋め、児童虐待防止を訴える真中さんの作文や、石田さんが主宰する「千葉ダルク琉球太鼓」の力強い演舞と実体験に基づく薬物依存のお話に皆心を奪われて聴き入りました。

犯罪予防活動部長 眞殿弘一



会場受付



作文朗読 真中匠馬さん(中央)

講演を聴いて

◆演題：薬物依存症からの回復支援

◆講師：一般社団法人ダルク生活支援員

石田 好文氏

千葉ダルク生活支援員の石田好文様から「薬物依存からの回復支援」をテーマに講演がありました。

石田氏自身何回も薬物依存になり、何回も逮捕され何回も塀の中に入った経験をお話になり、今は同じ苦しみを持った人達のために懸命に立ち直りのお手伝いをしているとのこと、またその方々や仲間と「千葉ダルク琉球太鼓」を主宰し、当日も大勢の方と舞台の上で熱演していただき入場者全員が最後に手をたたいて舞台上の皆様には拍手を送らせていただきました。



千葉ダルクによるエイサー演奏

習志野支部 新貝 信孝

地区内学校紹介コーナー⑪

八千代市立村上小学校

校長 田中陽子

本校は、明治6年に正覚院を仮校舎として始まった小学校です。明治40年には現在の郷土博物館の場所で開校し、その後、現在の場所に移りました。今年度、創立150周年を迎えます。

教育目標を「ともに手を取り、前進する児童の育成」、重点目標を「祝 創立150周年」学校から地域へ飛び出そう『ウェルビーイングな村上地区の担い手となる児童の育成』としました。視野を地域へと広げ、主体的に考え、行動できる子供たちを育成したいと考えております。

本校に残っている文献を紐解いていきますと、長きにわたって保護者、地域から温かいご支援があったことがうかがえます。素晴らしい歴史を大切にし、さらに発展させていきたいです。



桜が満開な正門

1年生を迎える会で演奏する吹奏楽部

習志野市立津田沼小学校

校長 笹生康世

本校は、明治6年、菊田校として創立され、今年度、創立151年目を迎えます。

昭和30年代より、体育を中核とした人間形成「人づくりは心づくり 心づくりは体づくり」を学校教育の柱としています。

児童は、規律正しく、粘り強く、友達に優しく、真剣に取り組む(黙働)等の姿が見られ、良き伝統として受け継がれています。

4月、校庭を見守る校舎4階のベランダに創立150周年を祝う横断幕を掲げました。横断幕に記された「きのうのしるし とび越えようよ」は、津小の校歌です。校歌に込められた思いをしっかりと受け止めながら、これまでの感謝の気持ちを伝える一年間にしていききたいと思えます。



円形校舎



バルーン・リリース

退任のあいさつ



佐藤 洋子(習志野)

令和5年7月をもちまして、保護司を退任することになりました。14年間観察所の方、保護司会の皆様のご支援をいただき、ありがとうございました。

少年少女達もお母さん、お父さんになり、町で会った時は生まれたお子さんも大きくなりほっとしました。又、怖い思いをした事もありましたが、面接で「俺がこんなに、バカな事をしてしまい、先生に迷惑をかけ申し訳ない」と言っていました。栃木刑務所も何回か、行かせて頂き、色々な思いが立込んで、今では色々な経験と良い思い出となり、保護司をさせて頂きありがとうございました。

新任のあいさつ



正田 富美恵(八千代)

この度、令和5年7月保護司の委嘱を頂きました。何も分かりませんが、地域の更生保護に少しでもお役に立てますよう、そして立ち直りを、支援する活動が出来るよう、一生懸命取り組んで参ります。

いま、生きづらさを抱えて居る人にとって、多様な人が励ましと支援を送ることが重要だと痛感しています。自分がその中の一人になれるよう、決意し活動していきたいと思えます。皆様、どうかご指導宜しくお願いいたします。

お詫び

第43号で、千葉県更生保護女性連盟会長表彰において、樋口英美様の記載が漏れておりましたので、お詫び申し上げます。